

(第3種郵便物認可)

北海道 プラス

〒060-0004 札幌市中央区北四条西6丁目1 毎日会館【☎】011(251)1755
【FAX】011(251)7346 広告のお申し込み、お問い合わせは【☎】011(251)1746

♡**青山 千景**(あおやま・ちかげ)1986年(昭61)1月17日、札幌生まれの29歳。北海学園大卒。中学時代からタレントとして活動し00年CMデビュー。07年度ミスさっぽろ。TVh「旅コミ北海道」やFMノースウェーブ「カモンダサナイト」に出演中。

♡**神代 澄子**(くましよ・すみこ)1940年(昭15)8月22日、札幌市生まれの75歳。03年、平岸ハイヤー社長に就任して、55歳で英国に留学して、59歳で日大卒業、60歳でピースポートに乗り世界一周、70歳で日本語教師の資格を取得している。



本社前に置かれた交通安全祈願のタルマの前で笑顔を見せる神代社長(左)と青山

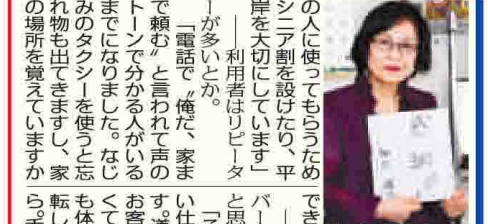
「3年でつぶれる」
「ええ。(小泉内閣)の規制緩和直後で業界は大きな転機を迎えていました。今までのやり方では立ち行かない現実を突きつけられました」
「いきなりの試練だったのですね」
「悩みと不安で睡眠薬を飲んでも眠れない日々が続きました。でも、このままでは本當につぶれてしまう。それだけは避けなければと社員の入れ替えなど、つらい決断もしま

元専業主婦 倒産危機乗り越え再生

▽**平岸ハイヤー** 本社・5の15。1958年、初代社長が1—3台で創業(現在は65台 業員は206人。だるまの行灯 札幌市豊平区平岸二条4の リンゴ農園をやめてタクシ 所有)。資本金2000万円。従 には76年から使用。

平岸ハイヤー 神代 澄子社長
連載10回目は、だるまの行灯(あんどん)が自印の平岸ハイヤー・神代 澄子社長(くましよ)の倒産危機を乗り越え再生した。前社長である夫の死去により、専業主婦から突然社長に。いきなりあつらで倒産と宣告されたが、今では札幌トップクラスの売り上げを誇るまでに再生。そこまでに至る秘話を明かしてくれた(今回は9月15日掲載予定)。

「全くありません。しかし、初めて社員の前であいさつした時、熱いまなざしを感じました。今まで夫がこの社員たちに支えられてきたのだから、今度は私が守る番なのだと思いました」
「その思いの表れでしょうが、社員の誕生日には手書きの手紙を送っているそうですね」
「社員のおかげで社の業績もトップクラスにいられるわけですね。ささやかでも感謝の気持ちを伝えたいですから」
地元・平岸への愛着は? 「毎週3回社員でコミ拾いをしたり、交通弱者



「6年で収支がトントンに。今では車1台あたりの売り上げが札幌の53社の中でもトップクラスになりました」
「社長として自信はありますか」
「先代が後押ししたのですね。その後は、まず社内の意識改革をしました。ソフトを考る運行課と予約を受ける配車センターを分ける専門性を高めることでフ口意識を持ってもらうようにしました」
「社員の意識は変わりましたか」
「はい。お客さまと友達のように話す社員もいたのですが、研修などを通して言葉遣いや態度など改まってきました。支出も見直し、相見積もりなどで大幅なコスト削減ができました」
「どのくらいで効果が出ましたか」
「6年で収支がトントンになりました。今では車1台あたりの売り上げが札幌の53社の中でもトップクラスになりました」

好きな言葉を聞かれ「感謝」と色紙に記した神代社長
「こんな素晴らしい仕事はないと思えます。道順を考えながらお客さまの心も察しながらはならないので脳も体もいつもフル回転しているのですから。手前めですけど」